

「自立支援法やり直して」

ピープルファーストが大会

知的障害がある当事者のグループ「ピープルファースト」の第14回大会が9・10両日、広島市内で開かれ、全国から約650人が

参加した。大会に先立ち、約350人によるデモ行進も行われ、障害者自立支援法の見直しなどを訴えた。

参加した。大会に先立ち、約350人によるデモ行進も行われ、障害者自立支援法の見直しなどを訴えた。

動をしており、今大会のスタ



約350人が広島市内をデモ行進



小田島会長

受け止め、厚生

各ブロックの代表者が「自立支援法で負担が増えた。1割負担の仕組みをやめてほしい。本人の実際収入を見てから負担を決めてほしい」「知的、精神障害の仲間が「見守り介護」を使えるようにしてほしい」などと発表すると、会場からも「1割負担がきついな」といった声が相次いだ。

「施設でつらい目に遭った」との発表があると、会場からは「本人の思いに反して施設入所させることは間違っている」との意見も出された。

中には「施設で職員の暴力や暴言を経験した。ほかにも泣いている人たちがいるのがかわいそうで、職員に『なぜそんなことをするのか』と聞いたことがある。『本人のためのしつけだ』と言われたが、理由はよく分からなかった」という人もいた。

労働省の大塚晃・障害福祉専門官は「自立支援法には課題がたくさんあることも理解しているが、必要な法律だと思っている」「障害者虐待防止法を作ろうという機運を盛り上げてほしい」

「また、大会最後には参加者一同で①虐待、人権侵害を許さない②障害を持った仲間たちが巻き込まれた事件と向き合う③自立支援法は根っこからやり変えて

「との決議文を採択した。

なお、大会が開かれた広島は、ピープルファーストとヒロシマが結成されたばかり。地元実行委員会の近藤竜治委員長は「虐待事件や

障害を持った子どもを親が殺した事件に声を上げていきたい」と話した。また、小田島会長は「これからはっと全国に仲間を増やして、いろいろな所で大会をやりたい」と語った。